

タブレット端末を不登校生徒支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年次から不定期で休むことがあった。家庭環境では、家事や家族の世話などを日常的に行っている。また、時間の経過とともに本人も無気力になり、登校が更に遠のいた。

具体的な取組

○自習室開設

学校会議室を開放し、登校時に自習室として活用した。時間があれば教員も積極的に関わり、信頼関係を構築した。また、学習時間の不足を自習室で補い、オンライン授業も参加できるようにした。

○図書館環境整備

授業時間中の図書館開放ができるよう支援員(月曜日)とボランティア(火曜日)を合わせて週 2 日、1 か月に 3 回配置した。図書館を整備したことで、館内でタブレット端末を使用し、オンライン授業に参加することができた。また支援員に質問しながら学習を進めることもできた。さらに、読書や習字に取り組むなど、安心できる場所となっている。支援員やボランティアの存在が不登校傾向にある生徒の未然防止にも役立っている。



○オンライン授業開始

学習の遅れを補うため、タブレット端末の機能を活用した。教室の授業をそのまま聞くことができるため、当該生徒が授業の進捗状況を直接確認することができ、教室に戻りやすいようにした。また、オンライン授業に参加しながら、コメント機能を活用し授業内で質問できる環境を整えた。当該生徒は板書についてコメントを入力し、授業に参加していた。

○S C 面談の活用

当該生徒の登校時、S C と面談を行う時間を週 1 回、木曜の 5 時間目に設定し、生徒の悩み・課題などの把握に努めた。S C と担任の情報共有を密に行い、課題の早期発見と早期支援に努めた。

成果

当該生徒は、支援開始前は行事のみ参加し、それ以外の登校がほとんどなかったが、自習室からオンラインで授業へ参加できる環境を整備したことで、登校日数が 2 年生の 5 月から 11 月において増加し、教員との関係性も向上した。

課題

学校内では三者面談・校長面談を通じて保護者支援を継続していく。学習支援においては、まずは基礎・基本を定着させることが課題である。

生徒の心の変容に合わせたスモールステップの支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校から不登校で中学入学当初は登校できていたが、GW明けから不登校となった。その後は興味のある授業や行事にオンラインで参加していた。3年生になって、保健室登校、別室登校、行事への手伝い、給食、教室復帰、夏の学習会参加、修学旅行参加と登校が安定し、現在では通常登校している。学習意欲も高く、進路に前向きに取り組んでいる。

具体的な取組

○校内支援体制

不登校支援の校内体制として、校内特別支援委員会を隔週で開き、情報共有や指導・支援体制の検討確認を行っている。また、令和5年度からは不登校対策推進委員会を新たに発足し、別室指導関係の見直しや校内別室の開設・運営等、不登校対策全般に携わった。

○デジタル機器を活用した支援

- ・タブレット端末を利用した授業・行事等の配信とチャットによるやりとり
- ・タブレット端末を利用した課題や解答・連絡事項の配布と課題提出
- ・デジタル教科書による学習支援



○別室指導

図書館の一角を利用している。火曜日と水曜日の午前中、家庭と子供の支援員と学校ボランティアに協力していただいている。連絡ノートで、情報の共有を図っている。給食も別室か教室かを選択して食べている。



○アセスによる調査

全校生徒対象に年2回、6月と11月に、学校環境適応感を図る調査を行っている。個別シートによる細かい分析結果とともに、学級や学校全体の生徒の適応感が分かり、面談や学級経営の資料として活用している。

成果

個に応じた支援を学校・学年で一つのチームとなり焦らず一歩ずつ行ったことで、2人の生徒が教室復帰できた。また、新規の不登校出現率が0.68%と大幅に減少したと同時に、関係機関等どこにもつながっていない生徒数を0人にすることができた。

課題

- ①関係諸機関との連携の在り方
- ②別室指導の開設日拡大・人員の補充・場所の確保と環境の整備